

定例市長記者会見録

日 時：11月22日(水) 午後1時30分～2時

場 所：本庁舎6階 特別会議室

出席者：一宮市 中野市長、福井副市長、山田副市長

報道機関 中日新聞、朝日新聞、読売新聞、共同通信社

本日の案件は四つです。

1番目は「粗大ごみ戸別収集のインターネット受付を開始します」についてです。

一宮市もデジタル市役所を掲げていますが、電子申請に関する市政アンケートで一番要望が高かったのがこの項目です。粗大ごみの戸別収集は、今までは電話で申し込みを受け付けていましたが、12月1日からはインターネットによる365日24時間対応の申し込み受け付けも実施します。収集対象品目は60品目で約8割をカバーします。どうしても収集物の詳細を確認する必要があるものについては、電話のほうがその場でやり取りなどできるため対象品目から外しました。まずは60品目で始めます。「7日前までの申し込み」や、「住んでいる地域での曜日指定」、「手数料はコンビニなどで1枚800円のシールを購入」などの条件はこれまでと変わりません。

本事業は、県内38市の中で9市が行っており、一宮市は10番目となります。尾張地域では名古屋市・あま市・清須市が行っていますが比較的早くできたと思っています。

粗大ごみの収集量の推移を少しご紹介しますと、コロナ禍で外出を控えた皆さまが家の片付けをした影響もあって、令和2～4年度の3年間に粗大ごみがたくさん出ましたが、最近少し落ち着いてきたという状況です。市民の皆さまが便利になるようにということで、12月1日から始めさせていただきます。

2番目は「まちなかの駐車場2時間相当分を無料化」についてです。

アンケートにお答えしていただくことを条件に、12月～2月までの3ヶ月間、年末年始を除く土・日、祝休日に限定して、まちなかの指定駐車場2時間相当分を無料化します。

事業目的の一つとして、市では“まちなかウォークアブル推進事業”を進め、自動車が主役の道ではなく歩行者がもっと楽しんでもらえるまちなかにしていこうと進めています。ともすれば歩行者を優先するあまり自動車を排除するのかというようなご意見も出ますが、もちろんそんなことはありません。愛知県は車社会ですし、お住まいの地域によっては公共交通機関でまちなかまでお越しただけでない方もいらっしゃいますので、そのバランスをどう取っていくのかを、今回の実証実験でアンケートを取って考えていきたいと思っています。

もう一つの事業目的として、商店街の方へのアンケートを実施し、商業性の向上を検証します。“まちなかウォークアブル”ということで、これからまちなかをいろいろ変えていくに当たっては、実際にそこで商売をされている方たちとの合意形成も重要です。その方たちの

思いとして、自分たちは郊外のショッピングセンターの駐車場無料と競っていて、その部分のハンディがあるというお話がよく出ます。その影響がどれくらいかということも含めて、市民・利用者・消費者の皆さまのお話を聞かなければいけないということで、12月から3ヶ月間、駐車場2時間相当分を無料化しながら、アンケートを取って、そのデータを基にいろいろ考えていこうというものです。

無料駐車券の受け取り方法については、まず対象の駐車場を使った方にスマートフォンなどでアンケートに答えていただき、そのアンケートの終了画面と使った駐車場の駐車券を配布場所で提示していただきます。配布場所は商店街等の店舗（全8カ所）で、店舗での買い物はしなくても2時間相当分の共通駐車券をお渡しします。

3番目は「消化器センターを開設します」についてです。

先月、「大血管・下肢動脈・シャント治療センター（通称：血管センター）」の開設について発表しましたが、次は12月から消化器センターを始めさせていただきます。

消化器疾患の治療も内科と外科に分かれており、外科は手術で、内科はそれ以外になります。消化器疾患の治療で、カテーテルや内視鏡といった内科的治療と外科的治療を選択するときに、患者さんが「やっぱり内科から外科に移ろう」と思ったり、病の進行によって治療方法が変わったりするケースもあり、もどかしいこともあったと聞いています。このため、尾張西部で初めて消化器センターを開設し、内科と外科の連携を市民病院でも進めていきます。

県内で外科・内科の枠を超えて消化器センターという形があるところは、豊田市の豊田記念病院、安城市の安城厚生病院、大口町のさくら総合病院の3カ所ぐらいだということで、こちらも先駆的な取り組みであると自負しています。消化器内科と外科が迅速で切れ目のない連携をすることで、質の高い医療を提供していきたいと思っています。

4番目は「令和5年度12月補正予算(案)に計上された主な事業」についてです。

主なものをいくつかピックアップしてご紹介します。

No.1 「犯罪被害者等見舞金」

「議案第86号「一宮市犯罪被害者等支援条例の制定について」」に関係したものです。

事件などで命を奪われた方のご遺族や、被害に遭われて重症になったり精神疾患に見舞われたりした被害者の方に対する見舞金の制度を始めます。

No.2 「新保健所整備事業」

かつての競輪場跡地の北側に新しい保健所を建設します。総額29億円ほどを継続費として、市町村合併で使える合併特例債などの財政スキームを使って、これから整備するというのを12月議会で提案します。

No.3 「流域貯留施設築造事業の増額」

大雨が降った時に、市内では雨水を小中学校のグラウンドに貯められるようにしています。危険なエリアはほぼ完成し、61小中学校のうち30校で対応しています。今年度か

らは公園の下に貯留施設をつくろうと大平島公園と多加木公園の工事を始めましたが、多加木公園のグラウンドを掘ったところ、産業廃棄物が大量に出てきました。40年ほど前に区画整理を実施した場所で、当時埋められた廃棄物を今回しっかり処理するため、工事費用が増えることになってしまいました。このため2億3,400万円の増額分について補正予算案として提出します。

No.5「将来の財政需要に備えた基金の積立て」

財政調整基金を14億円、公共施設整備等基金を10億円、合計24億円を基金に積み立てる提案をします。“シン学校プロジェクト”で小中学校の建て替えなどもこれから進めていきますので心強く思っています。

No.6「医療過誤に係る損害賠償金」

子宮全摘出手術で、退院後2週間ほどして発熱などがあり、もう一度確認したら摘出できていなかった筋腫が一部残っていたということで、再び手術をしていただくことになってしまいました。それに対して訴訟を提起され、今回168万2,000円をお支払いすることで和解締結しました。

最後に単行議案で主なものをご紹介します。

議案第86号「一宮市犯罪被害者等支援条例の制定について」

見舞金以外にも、例えば命を奪われた方の手続きを市の窓口でしていただくときにワンストップの総合窓口で対応したり、メディアスクラムと言われるような状況で引っ越したい・隠れたいというときに市営住宅の入居を認めたりするといった支援ができたということなどで挙げています。これは、今年2月に犯罪被害者の会の皆さまが市役所14階の市民ギャラリーでパネル展示を行ったときに、いろいろお話を伺い、市として何ができるかということを考え準備を進めてきた結果です。

議案第90号「一宮市水道事業給水条例の一部改正について」

議案第91号「一宮市下水道条例の一部改正について」

物価の値上げが続く中、市の水道事業と下水道事業についても、今年の夏から審議会で議論していただいていたのですが、やはり値上げの料金改定が必要ということで、今回提案させていただきます。改正内容は審議会答申に沿ったものです。上水道は、基本料金7%、従量料金15億円の増額で、例えば3人でお住まいの標準世帯で月1,100円台だったものが月1,400円台と2割ほどアップします。上水道については、一宮市は木曽川沿いで伏流水も豊かで条件に恵まれていることもあり、現在の水道料金は愛知県内54市町村のうち下から4番目の安い料金となっています。それが安いかどうかという議論がありますが、ご負担をお願いすることになります。

下水道は上げ幅が大きく、基本料金が25%の増額、使用料が18円/m³増額ということで、先ほど紹介した標準世帯3人の場合で月1,200円台が月1,600円台になり、3割ほど上がります。下水道の料金も一宮市は県全体の平均の真ん中から少し下ぐらいの安さでした。大変心苦しい状況ではありますが、他の団体も値上げの方向性があり、このタイミ

ングで議会にて料金改定について議論していただきます。

以上、本日の説明でございます。

質疑応答の概要

■令和5年度12月補正予算(案)に計上された主な事業

(記者)「新保健所整備事業」について、新しい保健所の建設はもともと決まっていたことですか？

(市長) そうです。できるだけ早く作りたいので、12月補正で計上します。令和7年度中に完成させ、オープンする予定で準備をしています。今は県の建物を借りていますが、そこではPCR検査もできません。機械があったとしても、建物自体が耐菌性、耐圧性などの点で対応できる施設になっていません。今後どのような感染症が流行するか分かりませんが、しっかり対応できるよう準備をしています。

(記者) 現在の建物は、県から借りているのですか？

(市長) 県の保健所があった建物にそのまま居抜きで市が入っています。一宮市新保健所が完成した際には、県から借りているところをお返しすることになります。

(記者)「流域貯留施設築造事業の増額」について、工期は何年までの予定ですか？また、今回の予算計上分は、増額分の総額ですか？

(市長) 工期は令和4～6年度の予定でしたが、令和4～7年度に変更し1年間延長しました。増額分の総額は5億円以上を見込んでいます。そのうち今回の補正予算計上分は2億3,400万円です。

(記者) 産業廃棄物が公園の地中に残っていたということですか？

(市長) はい。区画整理をする際に、昔は壊した建築物の端材などを公園の下に埋めていたようです。掘り返してみると相当量の廃棄物がありましたので、今回しっかり処理しようということです。産廃の処理費の他に物価や賃金の上昇分等を含めて、今回だけで2億円あまり、最終的には5億円以上の増額になります。

(山田副市長) 最終的な処理費のみの増額分は約3億3,000万円です。それ以外に物価上昇、週休2日制に対応する経費、仮設ヤードなどの費用を含んでいます。

(市長) 愛知県や国にも事情を説明して、増額分についても補助事業の対象としてご理解をいただきました。(補助率 国：2分の1、県：4分の1)

(記者) 工期の延長によって、本来の目的である水害対策への支障など懸念されることはありませんか？

(市長) そればかりは分かりません。今年は6月2日に大雨になりましたが、幸い7～9月は台風も直撃しませんでした。4年前に愛知県にて青木川調節池を作っていただいて、それ以降、新川・五条川・青木川流域では大きな水害は発生していません。ただ、多加木公園や大平島公園は土地の低いエリアですので、道路の冠水を減らしていくた

めには、こうした工事を実施していきたいと思っています。

■その他

(記者) BISHU FES. で、今回 TGC (東京ガールズコレクション) のイベントを初めて誘致し、市長も登壇しましたが、実際にやってみてどうだったかということと、企業からの協賛金や市の支出に見合った効果があったのかどうかも含めて、教えていただけますか？

(市長) イベントは大変良い反応で、お褒めの言葉もいただいています。TGC さんとしても初めての神社・商店街での開催で、全国に尾張の国 一宮・真澄田神社を発信できました。また、そうした状況を市民の皆さまが実感して、改めて地域の誇り (シビックプライド) につながる形でできて良かったと思っています。ただ、やってみて気付くことですが、反省点としてもっといろいろできたかなと思うところはあります。

今回、BISHU FES. に市から約 3,000 万円、国などから約 2,000 万円の支援がありました。他に地元経済界が 1 億円ほど (後日、東京ガールズコレクション実行委員会**が数値訂正したため、「1 億円ほど」→「6,000 万円ほど」に修正します**) の協賛金を一生懸命集めてくれました。本来 TGC のイベントは何千何万人規模の会場で開催されるイメージですが、神社での開催だと席が 500 人分で立見が 200~300 人分という状況ですから入場料収入が見込めません。このため来年以降は同じやり方はできません。一宮市がアフターコロナでがんばって応援し、地元の経済界の皆さんも、世界の一流品に使われている尾州生地は今一度光を当てて頑張ろうという想いでやっていただきました。このレガシーをさらにどう活かしていくかは、また来年以降、持続的に継続的に開催できるかどうかにかかっていると思っています。

(記者) 今お話があった来年以降同じやり方はできないというのは、TGC とのコラボは今回の一回限りで、来年以降は協賛金や予算の面で難しいということですか？

(市長) コラボしてやる可能性はあると思いますが、同じようにファッションショーをやるにしても、有名なモデルさんと呼ぶというやり方ではありません。それでもこの地域の繊維・ファッションのいろいろな潜在的な資源・ポテンシャルは改めて感じられました。学生さんを始め若い世代もいっぱい来てくれていましたし、70~80 歳代の職人の方たちがランウェイに立ってスポットライトを浴びている映像を見た市民の皆さまから非常に良かったねと褒めていただいています。一宮地場産業ファッションデザインセンター (FDC) で、匠の技を若い世代に継承する取り組みをしていますが、そこにも良い刺激があったのではないかと思います。

(記者) もっといろいろできたとのことですが、具体的には？

(市長) 本町商店街での無料イベントにもうちよっとにぎわいを作れたのではないかと思います。1 回目としては成功だったと思いますが、次回はもっと本町商店街での無料イベントをいろいろ仕掛けたらもっと面白いものができるんじゃないかなと感じるところがあります。

(記者) 地域経済への影響や効果に関しては？

(市長) そこは数字が出たら紹介したいと思いますが、11月にキャッシュレス決済10%ポイント還元キャンペーンを行いました。もちろん一宮市民だけでなく、市外から来た人にも使ってもらえるようにしています。3年前の新型コロナが流行し始めた頃には、デジタルだけのキャンペーンは「高齢者には使いにくい」と言われていましたが、今は60歳代の方がキャッシュレス決済ポイント還元キャンペーンをメインで使っています。そのあたりの数字がもう少ししたら出てきますので楽しみにしています。